

市の重要施策に係る説明と意見交換を行います

今回の案件は重要施策のうち、次の3件です。

- 1 夏油高原スキー場の今後の対応について
～今後の展望と財政への影響は？～
- 2 災害時コミュニティFMの整備について
～災害コミュニティFMって何？～
- 3 水道広域化による水道料金について
～水道料金、どう変わる？～

問い合わせ 広聴広報課 ☎72-8229

お住まいの地区に限らず、どの会場でも参加できます。都合に合わせてご来場ください。

日時		場所	
6月4日(火)	時間は各会場とも 午後6時30分～8時	黒沢尻北地区交流センター	黒沢尻東地区交流センター
6月6日(木)		黒沢尻西地区交流センター	稲瀬地区交流センター
6月13日(木)		黒岩地区交流センター	口内地区交流センター
6月14日(金)		飯豊地区交流センター	更木地区交流センター
6月20日(木)		鬼柳地区交流センター	和賀地区交流センター
6月21日(金)		相去地区交流センター	江釣子地区交流センター
6月25日(火)		立花地区交流センター	岩崎地区交流センター
6月28日(金)		二子地区交流センター	藤根地区交流センター

広報きたかみ第533号(5月10日発行)3～5ページの記事中に、誤りがありました。おわびして訂正します。

3ページ

- ①事業の継続【公設民営】 今後10年間のトータルコスト (誤)「4億7,900円」 → (正)「4億7,900万円」
 ②事業の継続【公設公営】 今後10年間のトータルコスト (誤)「7億7,900円」 → (正)「7億7,900万円」

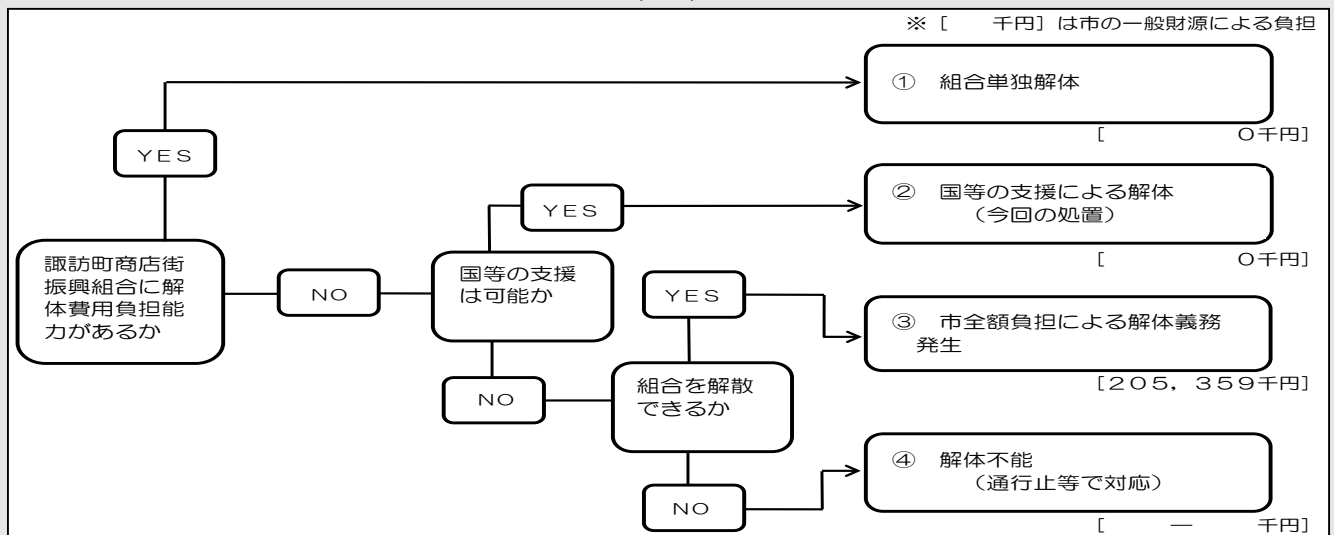
4ページ

(誤) (注2)市民スキー場規模でのスキー場利用者は、ほかの40%、料金は60%、施設整備に係る経費については60%で試算を行った。
 → (正) (注2)市民スキー場規模での投入コストは、公設公営の場合に比べ、スキー場の利用者数は6割減、料金収入は4割減、施設整備に係る経費については4割減で試算を行った。

5ページ

電子メール (誤)「shokan@city.kitakam.ne.jp」 → (正)「shokan@city.kitakami.iwate.jp」

諏訪町アーケード撤去の財源確保に関するフローチャート(表4)に誤りがありましたので、訂正します。



緊急雇用創出事業を活用し、民間に委託して被災者の健康見守り支援

市が震災対応支援のため、民間に委託し、大船渡市に保健師などを派遣する沿岸被災地健康見守り支援事業の開所式は7日、大船渡市で行われました。

沿岸地域を中心に雇用した看護師や保健師、栄養士、関係者などが出席。看板を除幕し、被災者や仮設住宅の運営事業支援員の心のケアを含む健康の維持・管理に向けて気持ちの一つにしています。この事業は、北上市が岩手

県の緊急雇用創出事業を活用し、(株)ヒロキャリアスタッフ(盛岡市、白沢宏幸代表取締役社長)に業務委託。保健師、看護師、栄養士など、特定の専門知識などを持つ人材を確保して、大船渡市の仮設住宅や仮設災害公営住宅などを定期的に訪問し、被災者の



見守り支援事業の看板を掲げる戸田公明大船渡市長、高橋市長、白沢社長(左から)

こころと体の健康を維持していかうとするものです。

第52回北上・みちのく芸能まつりは8月2日(金)～4日(日)に開催

北上・みちのく芸能まつり運営委員会は4月17日、北上商工会館で行われました。

今年のまつりは、これまで8月第1土曜日から3日間としていた日程を、滞在型の観光と市民参加を図るため、金曜日から日曜日までの3日間に変更。終了時間も公演の演出効果を図るため、昨年より30分繰り下げて午後8時30分までとしました。

まつりの日程は、初日の2日(金)が、みこしパレードや市民パレードのほか、新たに行われる鬼剣舞育成団体の大



群舞。3日(土)は、市内各地で芸能公演を行った後、お祭り広場での芸能公演と鬼剣舞の大群舞。4日(日)は、市内各地で芸能公演を行い、夜から北上川河畔で「トロッコ流し」と花火の夕べを開催する予定です。

「ウソ」のお話し



今年の北上展勝地さくらまつりは、寒さの影響でゴールデンウィーク連休後半まで満開が続き、多くの人を楽しませてくれた。ただ、少し残念だったのは「ウソ」の被害で花数が少なくなってしまったことだ。「ウソ」とは、普段は木の芽や昆虫などを餌としている鳥だが、サクラやウメの花芽を食べる場合もあるそうで、今年は大冷害だった平成5年以来、20年ぶりの全体的な被害だったようである。来年は、皆さんにサクラを楽しんでもらうため、しっかりと対策を取らなければならないだろう。

「ウソ」と言えば、「社会調査のウソ」という大阪商業大学教授の論文を読んだことがある。社会調査といえど浮かべるのはアンケート調査であるが、このアンケート調査結果をうのみにする危険性を説いたものである。なぜなら、設問の順序や前提条件の付け方、対象者の設定でいくらでも結果を誘導出来るからだそう。しかも、アンケートを作る本人も誘導に気付かない場合もあるという。自分と同じような意見の人たちを対象に選択式のアンケート調査を行い、さも100%に近い賛同を得られたかのように言いやす人を見掛けるが、それこそ要注意である。私はこの論文を読んで以来、アンケート調査をうのみにしないことにしている。しかも無記名で選択式のもの、誘導された責任の無い回答の可能性があると知っている。職員にも基礎的なデータ収集以外にもなるべく選択式のアンケート調査をしないように薦めている。政策などに対する意見はできるだけ記名でお願いしている。氏名を明らかにして意見を述べることは確かに勇気のいることであるが、より良い市政のために、それだけに本気度を伺い知ることが出来るからである。鳥の「ウソ」と社会調査の「ウソ」。皆さんはどちらなら許せるだろうか。